

# 元派遣 新天地はタイ

バンコクの下町カオサン地区は、1泊1000円(約300円)から泊まれるゲストハウスが集中する安宿街だ。屋台が並ぶ通りから1本路地を入ると、日本人の若者が集まる一角がある。

午後6時すぎ。薄暗くなつた空に「カンパニー」と日本語が響く。現地で働く日本人たちが宴会を開いていた。就職難の日本を離れ、タイで働く若者が増えている。「日本は一生懸命働いても報われない国だった」

カオサン地区にたまに遊びに来る川崎大介さん(仮名、37)は、そう話す。

2006年3月、着替えを詰めたスーツケース一つを持ってバンコクに来た。コールセンターで働くためだ。

日本国内で企業にかけた電話がバンコクのセンターに転送される。商品の問い合わせへの対応が仕事だ。相手は日本人のため、タイ語は必要ない。同世代の日本人50人ほどが働いていた。

の一室(25平方メートル)。駅に近く立地も良い。エアコンや家具付きで家賃は7800円(約2万3400円)。

食費も安い。町の屋台や食堂で手軽に食べられる焼き豚飯は1皿20円(約60円)。ゼイタクをしなければ1日100円(約3000円)ですむ。

今年3月、3年勤めたセンターを辞めた。1年間で時給が3円(約9円)しか上がらなかつたからだ。

現在、複数の職業紹介会社に登録して求職中だ。タイ語も話せるようになったので、月給5万円(約15万円)以上の仕事を探している。

東京都の出身。1993年に専門学校を卒業後、旅行会社のアルバイトや派遣社員を続けた。日本で最後の仕事

は、食品関連会社のコールセンターのアルバイトだった。時給千円で毎月手取りは約15万円。アパートの家賃7万8千円や、携帯電話代、交通費を差し引くと余裕はなく、毎月給料日の10日前には所持金が底をつく生活が続いた。

「いつもカップラーメンの残りの数と給料日までの日数を比べていました」

日本では正社員を希望していたがかなわなかった。転職先も見つからず、不安を感じていた時、日本の求人サイトでこの仕事を見つけた。迷わず、渡航を決めた。バンコクで3年間働いて約10万円(約30万円)の貯金が出来た。

日本にいた時ほど切迫感はない。蓄えて暮らせる来春まで、ゆっくり職を探すつもりだ。「でも、そろそろ見つけないと。国際ホームレスになりますね」(大和田武士)



9階建てマンションの最上階

会社の紹介で入居したのは

2面に続く